

～東日本大震災10年(3.11を忘れない)～ 次世代に語りつぐ大切な思い(抜粋)

中学生の澄んだ発想力と行動力に驚きと大きな勇気をもらいました。今も後輩に継承されている語り部やボランティア活動などは、人が生きていくため大切な文化の一つだと思います。



石碑設置

- ・女川中学校生徒発表
- ・費用1千万募金活動
- ・21地区の津波到達点

1. 碑文 女川いのちの石碑 千年の命を守るために 夢だけは壊せなかった大震災

東日本大震災では、多くの人々の尊い生命が失われました。地震の後に起きた大津波によってふるさと飲み込まれ、かけがえのないたくさんの宝物が失われました。「これから生まれてくる人達に、あの悲しみ、苦しみを再びあわせたくない!」

その願いで「千年後の命を守る」ための対策案として①非常時に助け合うため普段からの絆を強くする。②高台にまちを作り、避難路を整備する。③震災の記録を後世に残す。を合言葉に、この石碑を建てました。

ここは津波が到達した地点なので、絶対移動させないでください。

もし大きな地震が起きたら、この石碑よりも上へ逃げてください。

逃げない人がいてもここまで無理矢理にでも連れ出してください。

家に戻ろうとしている人がいれば絶対に引き止めてください。

今、女川町はどうなっていますか? 悲しみに涙を流す人が少しでも減り、笑顔あふれる町になっていることを祈り、そして信じています。

2. 気仙沼市立階上中学校卒業生の答辞(歴史に残したい感動の心の叫び)

卒業生代表の言葉

本日は未曾有の大震災の傷も癒えないさなか、私たちのために卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。ちょうど十日前の3月11日。春を思わせる暖かな日でした。

私たちは、キラキラ光る日差しの中を希望に胸を膨らませ、通いなれたこの学び舎を57名揃って巣立つはずでした。前日の11日。一足早く渡された思い出の沢山詰まったアルバムを開き、十数時間後の卒業式に思いを馳せた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こることも知らずに.....

階上中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。時計の針は14時46分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たましく生きていかなければなりません。命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。

私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達がいかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。先生方、親身のご指導、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

お父さん、お母さん、家族の皆さん、これから私たちが歩いていく姿を見守ってください。

必ず、よき社会人になります。

私は、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。

平成23年3月22日 第64回卒業生代表 梶原裕太



小地域ネットワーク活動

3. 気仙沼で津波災害に遭遇したTさんの思い（互助・公助支援に感謝！）・・・現在は錦ヶ丘に転居



当時小学校の教頭だったTさんは、「167体の遺体安置所」だった学校に泊まり込んだ辛い経験がある反面社会からの支援には大変助けられたそうです。毎年、自治会班長さんの三団体（社協会費・日赤会費・共同募金）の集金の意味を実感体験し、支えられるより支える側にいたいなあ！と話されていました。

日本赤十字社からの物資

①ふとん上下（人数分）②テレビ③冷蔵庫④炊飯器⑤電子レンジ⑥電子ポット⑦電気ストーブ

社会福祉協議会からの災害ボランティア派遣

こちらからお願いすると毎回数名のお手伝いさんがピアノの片付けの時は10名が来られました。

意気消沈していた時のボランティアさんは、地獄に仏様でした。

気仙沼市からの義援金

口座への振り込みは、毎年継続されています。



◆錦ヶ丘地区社会福祉協議会主催「ローリングストックを学ぼう」(2月8日 & 22日)◆

“災害に備え、使って足す備蓄の心得”

ローリングストック法

災害時は、食料の確保が困難になります。
大きな災害時は、ガスや電気、水道が止まり調理も難しくなるかもしれません。
常に1週間分の食料や水などを備蓄し、日常生活の中で消費しながら補充していきましょう。



赤い羽根共同募金助成事業料理教室

別名缶詰の防災訓練

講師：料理教室七ツ森

栄養士 浅野ゆか先生

前年度に続き2回目です。

会場：錦ヶ丘コミュニティセンター多目的ホール

受講者数：15名/第1回 11名/第2回

期待効果：食品ロス低減・災害時食事確保

感染対策：全員マスク着用・オープンスペース確保

料理作りは先生のみ実施

8種類のレシピは
希望者に差し上げます。

連絡先は表面最終行の事務局です。

◆あやし地域包括支援センター主催「令和2年度認知症フレンドリー講座」終講◆

～認知症と共に生きる地域を目指して～



共
催

錦ヶ丘連合自治会
錦ヶ丘地区社会福祉協議会
宮城支所保健福祉課

	開催日	講座内容
第1回	7月18日（土）	病院からのお話
第2回	9月12日（土）	認知症当事者の方からのお話
第3回	11月14日（土）	薬局・ケアマネさんからのお話
第4回	1月23日（土）	振り返り・まとめ

<まとめ>

- ①認知症は特別な病気ではなく、人が年を重ねてしわが増えたりするのと同じ老化の一種ととらえることが大切
 - ②「人と会って話すこと」は、認知症の薬以上の効果があるので交流の場は、宝物である
 - ③地域の方々のサポートがあれば、認知症になっても地域での生活が可能
- <地域のみなさんへ>
ご心配のある方は自分だけで悩まず、社協や民生委員に声をかけて下さい。地域包括の専門職にお繋ぎします。

広報委員会より

☆災害は忘れないうちにやって来る時代。2月13日の震度6強は、10年前の余震とか。収束しない新型コロナウイルス 3月17日の宮城県は、最多の107名。何気ない安心安全な日常生活を取り戻すためお互い様、頑張りましょう。

☆仙台市社会福祉協議会のコンセプトは

「一人ひとりの市民がその人らしく地域で安心して、いきいきと暮らせる福祉のまちづくり」です。